

文化・芸術

「旅」
occid

2007年、クスノキ、彩色

(作家蔵)

丸尾康弘 (1956年)

「ぼくはね…」と、話しかけてきそうな下がり眉の男の子。困っているのでしょうか、何か訴えたいのでしょうか。

幼児特有の大きな頭部にまるいおでこ。しかし手が、指が、子どもにしては繊細過ぎるのです。この折れそくに細い指先が、どこか不気味な、ただの子どもではない、何か異質な存在に感じさせます。

宙に浮いているのは、現代の子どもたちの不安定な状況、地に足がついていない感覚を表しているといえます。放射能やコロナウイルスなど、目に見えない脅威にさらされながらいろんな制約を受けて生きている子どもたち。

そんな子どもたちの作品に向き合った人々は「なでたい」という衝動に駆られるようです。それは丸いフォルムを触ってみたい、ということもあるでしょうが、落ち着かせてあげたい、安心させたいという気持ちになるからかもしれません。

(池田)

◇
28日午後3時から「丸尾康弘×田中淳(大川美術館長)対談」をプラスアンカーで開催。申し込みは電080・1152・0083まで。

大川美術館企画展から

《名画の扉》



(撮影=荒関修)